

《テーマ》
まぼろしの豊臣大坂城をしのんで
—大坂の陣400年—



開催日 平成27年12月12日(日)
場所 大阪歴史博物館

「歌舞伎・文楽からみた大坂の陣」
演劇総合プロデューサー 河内 厚郎 氏
『三代記』『佐々木高綱式勇記』『花飾三代記』などの大阪軍記が人気を博した。

第一期本丸工事、第二期二の丸工事、第三期物構え工事、第四期新たな城壁長さ三里をめぐらして難攻不落の城を築くという視点から講演をされた。

第15回なにわ歴史シンポジウム
上町台地未来遺産フェスタ

エリーニ ニュースレター vol.10

10号 2016(平成28年)7月発行

National Federation of UNESCO ASSOCIATIONS IN JAPAN
UNESCO
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
エリーニ・ユネスコ協会
ユネスコ協会

大阪市中央区備後町3-6-2 KFセンタービル Tel.06-6264-4455

■ 基調講演 内容 ■

「まぼろしの豊臣大坂城を掘り起こす」
前大阪文化財研究所学芸員 黒田慶一氏
「豊臣家と豊臣秀頼の政治的位置」
帝塚山大学教授 笠谷和比古氏



■パネルディスカッション■

まぼろしの豊臣大坂城をしのんで

河内氏がコーディネーター役を努められ、日本近世の観点から大阪の陣を語られ、黒田氏は城郭史家として大坂城や大阪城下を発掘した観点から発言され、河内氏はコーディネーター役をしながら、大坂の陣を題材とした歌舞伎や文楽から見た身近な大坂城を語っていただいた。(長谷川恵一)

■エリーニ・ユネスコ協会とは…■

1994年12月…創立
1995年 2月…日本ユネスコ協会連盟から承認

エリーニ・ユネスコ協会は、大阪の上町台地が日本で最も古くから開けた町であることに着目し、歴史シンポジウムや歴史ウォークを開催し、上町台地を世界に発信することを目指しています。

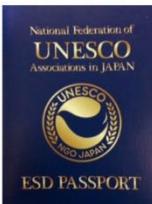
また「ESDの研究会とユネスコスクールの普及」に取り組み、子どもたちの学びが豊かになるよう活動しています。

まずは知ることから
(申込の流れ)

STEP 1
興味を持ったら
事務局までお電話を

STEP 2
例会や行事に1日会員として
参加をしてみる

STEP 3
入会を申し込む
(事務局宛に申込書を送付)



二〇一五年十二月二十六日、大阪国際交流センター（銀杏の間）で「エヌスコ協会 ESDパスポート」体験発表会が開かれました。
「ESDパスポート」は、日本ユネスコ協会連盟がボランティア活動普及の目的でつくる手帳であり、ユネスコ協会経由でユネスコスクールに配布されています。生徒たちはボランティア活動のたびに1ボラン、2ボランとポイントをESDパスポートに集めます。30ボランに達した生徒は、認定証を受け取ることができます。
発表会当日は、北摂つばさ高校、追手門学院中学高校、鶴見橋中学、春日丘高校、ヨリタデイーザーなどの海外交流、防災教育、地域清掃、保育園や老人ホームでのお手伝い、エキヤップ回収、平和学習、アジア学習など、多様なボランティア活動について報告があり、お互いに刺激を与え合いました。その後、数人ずつのグループに分かれ、ボランティアに関するワークショップもおこないました。
最後に、30ボランに達した生徒に対する認定証の授与がありました。プレゼンターは、大阪府ユネスコ連絡協議会の中馬弘毅会長でした。(岡憲司)



私たちにもできる支援があります！

お知らせ『熊本地震 子ども支援募金』



4月14日に発生した熊本地震から4ヶ月を過ぎましたが、現地では未だ、安心できる環境とは言えません。

また被災した学校では授業の遅れ等が生じ、教育復興が必要となっています。そこで日本ユネスコ協会連盟では現地調査を行い、皆様から頂いた募金を、学校、学童保育所等への短期的な資金支援、中期的な子供達への学習支援に使わせて頂き、教育支援を行っていく予定です。

日本ユネスコ協会連盟 子ども支援募金口座

お振込先 郵便局

口座番号：00160-6-573458

口座名義：Uサポーターズ

報告

倒壊したブロック塀の撤去、草刈りといった作業を地元の方たちと会話を交わしながら勤しましたが、まだ復旧のメドが立たない現状を目の当たりにしました。

あなたの書き損じはがきを
ユネスコ世界寺子屋運動へ！



11枚の書き損じハガキで
ひとりがひと月学校へ！



さまざまな理由で教育の機会にめぐまれない子どもや大人のために「学びの場＝寺子屋」を広げていきましょう！

エリーニ・ユネスコ★エコプロジェクト
ペットボトルキャップ回収



ペットボトルキャップ回収によって貧困に苦しむ世界の子どもたちの支援活動に取り組んでいる団体に寄付しています。
支援にご協力お願いします。

*ペットボトルキャップ800個でワクチン1人分です。

■ シネマフューチャーセッション ■ 歴史文化遺産の理解と保存の重要性について考える

日本ユネスコ協会連盟制作「雄勝法印神楽の復興」映画上映と
同じ映画を見て語り合うシネマフューチャーセッション

エリーニユネスコ協会U's(青年部)×あべのハルカス近鉄本店 縁活事務局×関西フューチャーセンター
協力:大阪府ユネスコ連絡協議会、國學院大學若木育成会大阪府支部



あべのハルカス近鉄本店
8階街ステーション

日本ユネスコ協会連盟は東日本大震災の文化復興の一環として宮城県石巻市雄勝町に600年以上にわたり伝えられた郷土芸能の復活に尽力しました。映画は復興に取り組む雄勝町の力強い姿だけでなく、法印神楽の魅力、雄勝の自然、日本人の持つ心や日本神話など様々な要素がとりいれられ、震災から復興へ向かう力強い姿を描いた作品です。手塚真監督より5年経った今だからこそ多くの人に観てほしいとのコメントや映画撮影時のエピソードなど(VTRで)おはなしいいただきました。

今後の展望
私たちが日本文化を理解し、文化遺産の保存に取り組むことの大切さを学ぶ上でこの映画鑑賞を皆に提言したいです。

(米田伸次)

2016
3/7・8

共催



3・11を忘れない

■ 講演とシンポジウム ■ 大阪府ユネスコ連絡協議会 東日本大震災復興支援事業

「21世紀を生きる私たち」3・11 いのちの尊厳、つながり



基調講演
神津カンナ 氏

東日本大震災直後からユネスコスクールの高校生を中心に、ユネスコ関係者が被災地支援活動に取り組み、現在も継続されている。3・11五年後の今、この五年間の取り組みでの学びを参加者間で共有し、学びの体験を経験化し、これからのユネスコ活動に生かしていくことが目的。

作家でエッセイストの神津カンナさんを講師・司会に招いて、ユネスコ協会「ESDパスポート」震災支援ボランティア活動の参加している高校生たちと被災地ユネスコ活動支援活動の会員(坂口一美、箕面ユ協会長)らで楽しい、有益な学び会い(シンポジウム)のひと時を持ちました。



3・11と向き合うことが、いのちの尊厳」というユネスコ精神を学ぶこと深くつながっていることを痛感させられた1日でした。

3・11と向き合うことが、いのちの尊重」というユネスコ精神を学ぶこと深くつながっています。被災地支援活動を、参加者だけの学びの体験だけに終わらせず、体験者皆で学びを共有、経験化し、体験者の学びを自己変革にどう発展させていくかのフローアップの面で意義があります。

参加者の感想・反応

日本文化のキーワードが、神、人、自然、祭りの一体化であることが理解できました。その象徴としての東北神楽の復興にユネスコが取り組んでいることに感銘しました。

3・11が風化されようとしている今、「3・11を忘れない」という意味を改めて学ばせていただきました。

文化遺産を未来へつないでいくことの大切さを学ばせていました。単に、映画鑑賞だけにとどめず、ワークショップを導入したことで理解を深めあうことができたのは良かったと思いました。

東北を訪問してみたいですね。

3・11が風化されようとしている今、「3・11を忘れない」という意味を改めて学ばせていただきました。

文化遺産を未来へつないでいくことの大切さを学ばせていました。単に、映画鑑賞だけにとどめず、ワークショップを導入したことで理解を深めあうことができたのは良かったと思いました。

（米田伸次）

2015
2/7・8 第23回ワン・ワールド・フェスティバル

環境破壊、人権抑圧、民族紛争、難民、貧困など国際社会は大きな課題を抱え、それらは年々、深刻化しています。平和、人権、環境、貧困など、地球規模の課題は、それ自体が単独で存在しているのではなく、豊かさを享受している私たちの日々の生活や認識の仕方と深く関わり合っています。課題解決のためには、市民一人ひとりが自らの問題としてとらえ、考え、行動しなければなりません。そこで、市民に広く国際協力の大切さを認識してもらい、活動に参加してもらう機会を提供しようと、関西を中心に国際協力に携わっているNGO、国際機関、自治体、企業などが協力して、1993年から毎年、国際協力の催し「ワン・ワールド・フェスティバル」を

- (1) 地球規模の課題や地域社会の課題への市民の意識とライフスタイルの変革の促進
 - (2) 課題解決への市民の参加促進
 - (3) 開発教育の促進
 - (4) ボランティア活動の促進
 - (5) 異(多)文化理解の促進
 - (6) 環境問題への意識の向上と活動の促進
 - (7) NGO/NPO間の連携・協働の促進
 - (8) NGO/NPOとODA実施機関の連携
 - (9) NGO/NPOと教育機関との連携・協働
 - (10) NGO/NPOと行政機関との連携・協働
 - (11) NGO/NPOと企業・団体との連携・協働
 - (12) NGO/NPOの力量と意識の向上
 - (13) ネットワークの促進
- を目的として開催しています。ワンフェスが「世界の中の日本」である事実を認識し、それに対する興味・関心を抱くきっかけ作りの場となり、多くの人が訪れるものになればと思います。(奥野祐樹)



「ユネスコ・ユース・ネット」として活動展示ブースの企画設営し、ユネスコ活動やU-comeの案内を来場者に行いました。

2016
3/20 U-come UNESCO communication meeting

3月20日名古屋にてU-come 2016が開催。社会問題に向き合い、自分で考え行動できるきっかけを目的とし、留学生を含む中学生から社会人までの72名が参加。今回の

社会問題として、自然環境問題、インターネットと当事者意識、防災減災、相互理解とコミュニケーションを取り上げました。そして「平和」とは何なのか、そのために自分が何ができるのか考えました。(玉置友樹)

2015
11/14・15 ユネスコ青年研修キャンプ「COLER」

ユネスコの青年会員たちが、まLGBT、生活保護、人種差別などなどの難しい問題に目をそらさず、まじめに楽しく、たくさんの『COLOR』に触れたキャンプでした。また、これをきっかけに、ユネスコ協会に入って活動し始めた人や大学のユネスコサークルとの交流につながったという声が聞かれ、本来の、「知識・交流を深め、今後のユネスコ活動の発展につなげる」という大きな目標を達成できたと感じました。(富澤明久)

2016
3/1～22 南北コリアと日本のともだち展
ハルカス展

南北コリアと日本のともだち展は、私たちの住む北東アジア地域の平和を願う催しです。大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国・日本、在日コリアンの子ども達の絵をひとつの会場に展示して、絵でお互いを紹介しあい、わたしたちの間にある壁を乗り越える第一歩にします。今年のテーマ「私のおきにいり」の絵も東京や日本各地、ソウル・平壤・中国などをまわり、大阪の地元の子ども達にメッセージを添えて戻ってきました。

2015
8/2～5 第47回ユネスコ子どもキャンプ
in千葉県立 内浦山県民の森

「心のピースを感じ、つなげてー」

このキャンプでは子どもたちと一緒に3泊4日、共同生活や自然とふれあうことで、自然や日常生活のありがたさ、人のつながりなどを感じもらいました。キャンプを通じてテーマにもあるpeace(平和)と仲間のピースをパズルのように組み合わせてユネスコの掲げるpeaceの輪をたくさん広げることができたと思います。このキャンプのために全国の青年会員が集まりキャンプは大盛り上がりでした。

子どもから大人まで一人一人が笑顔のピースでいっぱいのキャンプになったと思います。(富澤明久)

2016
2/12～15 南北コリアと日本のともだち展
東京展

今年は等身大の人型の絵が展示されましたが、装飾品や服装から様々な違いが見ることができて面白かったです。大学生の訪朝報告会では、過去の訪朝団との交流会もあり、年々国が変化していく様子を学ぶことができました。子どもの絵の交流はもちろん支えるスタッフ側も繋がりができることは意義のあることだと思います。(富澤明久)